

## 02

### 映像インスタレーション "waltz/ワルツ"

中川運河 映像アーカイブ プロジェクト  
2013年度の実施報告

#### A video installation "waltz"

A report of Nakagawa Canal Video Archive Project 2013.

デザイン学科・専任講師  
Department of Design・Lecturer

井垣 理史 Masashi IGAKI

映像メディア学科・専任講師  
Department of Visual Media・Lecturer

伏木 啓 Kei FUSHIKI

南山大学人類学研究所・非常勤研究員  
Anthropological Institute, Nanzan University・Part-time Research Fellow

木田 歩 Ayumi KIDA

## はじめに

映像インスタレーション“waltz / ワルツ”は、中川運河(名古屋市)の水上を利用した映像インスタレーションである。2013年11月8日(金)~10日(日)の3日間、夕刻より夜にかけて長良橋上流にて実施された。6基のフロートにそれぞれ高さ4m幅2mのスクリーンを設置し、運河の水面や中川運河に縁のある人々を投影するというサイトスペシフィックなアートプロジェクトであった。本稿では、企画の背景に触れたうえで、プロジェクトの概要について説明する。

## 1 プロジェクトの背景

中川運河は、名古屋港と名古屋駅を結ぶ、全長約8.2kmの川である。大正から昭和にかけて、工業都市として発展していた名古屋の物流を支えるため、1926年に着工し、7年をかけてつくられた。戦後しばらくは名古屋の物流インフラの中心として機能していたが、1960年代以降、貨物の輸送形態が水上から陸上へと移行するに伴い、運河を利用する船舶隻数が減り、現在では物流としての役割はわずかなものとなっている。また、運河護岸の建築物も老朽化し、立て直しや修復等の何らかの対策が必要となっている。そのような背景から、名古屋市および名古屋港管理組合によって、運河の再生計画<sup>[1]</sup>が提示され、緑地化や商業施設の誘致など、様々な試みがなされるようになった。一方で、近代産業の面影を残す運河の景観は特殊性を帯びたものであり、その価値を踏まえた再生が望まれている。

## 2 プロジェクトの概要

『中川運河 映像アーカイブ プロジェクト』は、再開発により変化していく状況を、情報化社会を生きる私たちにとって身近なメディアである映像によって、継続的に記録し共有することを試みるものである。また、その映像を素材にして、運河という開かれた場にインスタレーションとして展示することで、近代産業を表象する運河とその周辺地域の魅力をあらためて発見し、私たちが暮らすこれからの都市形成につなげていくことを目指している。その第一歩として、「中川運河再生文化芸術活動助成(中川運河助成ARToC10)」の支援のもと、2013年度は映像インスタレーション“waltz / ワルツ”を実施した。

近代以前から多くの人々が日常的に行き交い、遠くには名古屋駅の高層ビルからテレビ塔までも見渡せる通りと、工場や倉庫が建ち並ぶ運河沿いの道路が交わる場を、鑑賞エリアとして設定した。仕事帰りや散歩のついでに気軽に立ち寄ることができる

河上に6体のスクリーンを浮かべ、運河の水面や周辺の風景、また運河に関わりのある人々の記録を投影した。中川運河の水深は、一定に保たれるよう管理されている。しかし、その水面は、風や水上交通により細波が起きる。また、天候により水面が反映する色彩や様相は大きく変化する。今回の映像では、季節や天候により変幻する中川運河の豊かさを基軸とし、護岸で働く人、漕艇の練習をしている人、近隣に住んでいる人などに出演いただいた。

それらの映像を中川運河に浮かべることで、映像だけで完結してしまうのではなく、むしろ映像とともに運河の夜景や護岸の緑地など、様々な要素が共鳴しあう空間が現出した。「実在する世界を記録し、再構成する」という映像本来の特性を活かしながら、映像と都市再生との関係を模索することで、メディアの今日的あり方をも問うアートプロジェクトであった。]

## ●実施概要

タイトル:映像インスタレーション“waltz / ワルツ”

日時:11月08日[金]～11月10日[日] 18:00 - 20:00

会場:中川運河長良橋北(受付:名古屋市市中川区舟戸町6丁目地先)

主催:中川運河 映像アーカイヴ プロジェクト(2013年度中川運河助成ARToC10助成採択事業)

後援:名古屋市, 名古屋港管理組合, 公益財団法人 名古屋まちづくり公社 名古屋都市センター

総合ディレクション・映像:伏木 啓

空間設計・施行:井垣 理史

企画・運営:木田 歩

映像出演:宇佐美 綾, 大脇 莉奈, 金田 英雄, 白石 明梨, 西田 景子, 野々山 碩人, 森本 知之, 山内 康平

協力:株式会社TAIHO, デザインリテラシー研究会, 中川運河デザインラボ, 名古屋港漕艇センター, 名古屋学芸大学メディア造形学部, 青山 美紀, 荘司 陽太, 中上 淳二, 中西 政勝, 早川 幸司, 横関 浩

ケータリング:positive food cafe bou(フードトラック・ポジティブフード カフェボウ)

記録(写真):村上 将城, 稲垣 拓也

記録(映像):菅森 謙太, 丹羽 和大

フロート制作補助:猪多 誠章, 金森 菜, 坂 咲江, 杉浦 遥, 田口 ひかり, 細江 真生美, 山口 帆奈, 佐藤 天咲, 杉山 左京  
会場運営補助:岩田 芽子, 立松 亜也奈, 所 遥菜, 早川 真理乃, 若杉 春菜, 斉藤 隼也, 澤田 さちえ, 渡邊 健太

プロジェクトURL: <http://canal-vap.com>

## ●作品サイズ/素材

スクリーン:4000×1950×40mm(素材:スチール, PVCコーティングシート)

フロート:1820×7900×110mm(素材:SPF材, 合板, 発泡スチロール)

その他:アンカー(素材:スチール), PEロープ, ワイヤー

映像関係:フルHDプロジェクター×6, コンピュータ×3



写真1:水上から作品(部分1)



写真2:長良橋から名古屋駅方面を望む(夜)





写真3:長良橋から名古屋駅方面を望む(昼)



写真4:水上から作品(全体)

## おわりに

名古屋市が発表する「中川運河再生計画」によれば、今後、中川運河を「にぎわいゾーン」「モノづくり産業ゾーン」「レクリエーションゾーン」に分け、それぞれのテーマに沿った再開発を実施するプランとなっている。実際、2013年は、名古屋駅南の堀留の開発が着工され、老朽化した幾つかの倉庫も取り壊された。その一方で、性急な再開発による安易な商業施設の誘致などは、かえって中川運河の魅力を失すとの市民の声も多い。そのような背景から、名古屋都市センターを中心に、中川運河をめぐるシンポジウムの開催や、芸術活動の推進など、多様な視点で中川運河の価値を探る取り組みがはじまっている。中川運河助成ARToC10も、そのような経緯から生まれたものである。

本プロジェクトは、2014年度も継続して行い、中川運河の移り行く景観を記録しながら、新たな作品提示とともに、その価値を見出すことを試みる予定である。

### 注釈

[1] 詳しくは名古屋市発表の中川運河再生計画にまとめられている：  
<http://www.city.nagoya.jp/jutakutoshi/page/0000041358.html>



写真5:水上から作品(部分2)



写真6:鑑賞エリアから作品